人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校種間の接続・一貫性を追求した実践事例

１．基本情報

○都道府県名及び市町村名

東京都武蔵村山市

○学校名

武蔵村山市立第一小学校・武蔵村山市立第一中学校

○学校のＵＲＬ

第一小学校　http://musashimurayama.ed.jp/mmced1s/
第一中学校　http://musashimurayama.ed.jp/mmced1c/

２．学校紹介

○学級数

第一小学校　【通常学級】各学年１２学級、【特別支援学級】３学級
【合計】１５学級
第一中学校　【通常学級】各学年１３学級、【特別支援学級】３学級
【合計】１６学級

○児童生徒数

第一小学校　３８６人（平成２５年５月７日現在）
（内訳：１年生 65 人、２年生 61 人、３年生 58 人、４年生 61 人、５年生 57 人、
６年生 85 人）
第一中学校　４４６人（平成２５年５月１日現在）
（内訳：１年生 169 人、２年生 150 人、３年生 127 人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

第一小学校
（教育目標）
・　進んで学ぶ子　・　元気な子　・　心の強い子　・　やさしい子
（人権教育の目標）
・　自分を大切にするとともに他の人の大切さを認め、思いやりのある行動ができる児童を育成する。
第一中学校
（教育目標）
・　心豊かな、たくましい生徒になろう
・　互いに協力し、思いやりのある生徒になろう
・　正しい判断ができ、行動できる生徒になろう
（人権教育の目標）

・　人権に関わる基本的な知識を身に付け、課題解決の能力と態度を育成するとともに望ましい人間関係構築力の育成を図る。

○人権教育にかかる取組の全体概要

○　第一小学校・第一中学校の人権教育の連携

第一小学校の卒業生のほとんどが第一中学校に進学することから、９年間を見通した年間指導計画を作成するとともに、人権課題ごとの学習の系統性を明らかにし、人権教育をより効果的に進めることとした。

そのため、以下の研究主題及び研究仮説を設定し、実践を行った。

＜研究主題＞

自尊感情を高め、互いに大切にし合う児童・生徒の育成

～小中連携による人権教育の推進～

＜研究仮説＞

自己評価シート（「自尊感情測定尺度（東京都版）」）を用いて児童・生徒の自尊感情の実態を把握するとともに、小中連携して人権教育の推進に関する学習活動を計画的に取り入れ、道徳の授業や特別活動を充実させることで、自尊感情が高まり、自分を大切にするとともに他の人を大切にして行動する児童・生徒を育成することができるであろう。

＜目指す児童･生徒像＞

小学校	低学年	自分が好きと思える児童
小学校	中学年	自分のことを大切に思える児童
小学校	高学年	自分や相手を大切にしながら行動できる児童
小学校	杉の子学級	自分を大切にする児童　友達を大切にする児童
中学校全学年・Ｉ組		自他を認め、よりよく共存できる生徒

３．特色ある実践事例の内容

○　実践・指導事例１　個別的な視点からの取組

＜小学校　第５学年　道徳＞　　人権課題「子供」

１　主題名　不正を見過ごさない　　４－（２）公正・公平、正義

２　資料名　ＤＶＤ「プレゼント」

（法務省人権擁護局、財団法人人権教育啓発推進センター）

３　ねらい

いじめを傍観する側などの心情を考えることを通して、不正を正そうとする心情を育てる。

４　人権教育の視点

いじめを傍観することもいじめであることに気付かせ、いじめをしない、許さないという心情を育てる。

５　成果

いじめられる側の心情について深く考えさせることを通して、傍観する行為自体もいじめに加わったことになると改めて意識させるとともに、いじめを許さない断

固たる態度を育成することができた。授業後、互いの言動を注意し合う姿が、多く見られるようになった。

○　実践・指導事例２　普遍的な視点からの取組
＜中学校　第２学年　道徳＞
１　主題名　かけがえのない生命を大切にしていく　３－（１）生命尊重
２　資料名　「十四歳、最後の手紙」（中学校道徳②　心をつないで　教育出版）
「命」（心を見つめて　東京都道徳教育教材集　中学校版）
３　ねらい
生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。
４　人権教育の視点
「かけがえのない生命を大切にしていくこと」を考えさせることを通して、生命を尊重する態度を育てる。

５　成果
同年代の生徒の作品を用い、生命の重みや父母の想いを考えることにより、自分が今、こうして生活していることのありがたさや生きることの大切さを改めて感じとっていた。
生命の大切さに真摯に向き合い、学習に取り組む姿が多く見られた。

○　実践・指導事例３　普遍的な視点からの取組
＜小学校　特別支援学級　生活単元学習＞
１　単元名　　みつけたみつけた、いいところ（宿泊学習を通して）
２　単元の目標
・ 宿泊学習を通して各々の日常生活における身辺の自立を目指す。
・ 自分のよいところや、友達のよいところを見付け、それを互いに伝え合う心地よさを感じることができる。

３　人権教育の視点
自分や友達のよいところを見付けたり、伝えたりする活動を通して、友達と関わり合い、自己肯定感を高める。
４　成果
・ 友達から自分のよさを認められ自己肯定感を高めることができた。
・ 写真や記録カード等を用いて、視覚に訴える支援を行うことにより、宿泊学習の内容を想起させ、学習への意欲を高めることができた。

○　小中連携の取組
１　人権標語の作成
（１）ねらい
自分を大切にする、他人を大切にする、生命の大切さを伝える等の言葉や気持ちを標語にすることで、人権の尊さについて考えさせる。
（２）取組

①　夏季休業中の課題とし、各自が家族と相談し、人権標語の作成をする。
②　学級で話し合い、代表作品を選考する。
③　学校の代表作品を全校児童・生徒で選考する。
④　代表作品の掲示を中学校区内の郵便局に依頼し、地域に発信する。

（３）各校の代表作品

第一小学校　　手をつなごう　みんなの心が　世界をつなぐ
第一中学校　　君の勇気　その一言　誰かの心に光りさす

２　人権宣言の作成

（１）ねらい

いじめや暴力のない学級・学校を目指し、学級・学校の集団への所属意識を高めるために、児童・生徒が考えを出し合い学校としての人権宣言を作成する。この実践を通して、生徒一人一人が集団の一員であるという自覚と責任をもち、楽しく豊かで規律のある集団生活を築こうとする態度を育てる。

（２）取組

①　学校生活で大切にしたいこと、守らなければならないことを各自で「自分宣言」として作成し、発表する。
②　各学級において、それぞれが作成した「自分宣言」から、学級で大切にしたいこととして「学級宣言」を作成する。
③　校区内の学校でそれぞれ作成した「学級宣言」を基に、小・中学校の児童会・生徒会が中心となって校区における人権宣言を作成し、それぞれの学校で採択・発表するとともに地域に発信する。

３　一小一中合同研究全体会　（年間３回。そのうち授業研究２回）

教員間の共通理解が深まり、協議会での意見交流を活発に行うことにより、小・中９年間を見通した人権教育の在り方について、考えを深める。

４　一小一中プロジェクト会議（月１回）

両校の校長、副校長、研究・研修主任が月に１回程度集まって、研究の方向性を中心に小中連携の取組について検討した。両校の共通理解を深め、スムーズな意思決定が可能となり、計画的に連携を進めることができた。

４．実践事例の実績、実施による効果

○自己評価シート（「自尊感情測定尺度（東京都版）」）を用いた調査の実施

１　調査の目的　目指す児童・生徒像の実現状況を確認するため、児童・生徒の自尊感情の実態と変容を把握する。
２　調査の対象　第一小学校児童３８３名、第一中学校生徒４５１名
３　調査の時期　第１回：平成２４年６月　　第２回：平成２４年１１月
４　調査の観点

□　自尊感情

自分のできることやできないことなど、全ての要素を包括した意味での「自分」

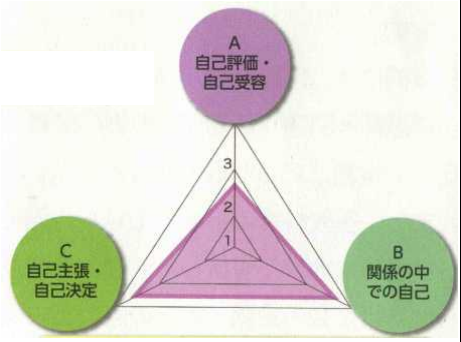
を他者との関わり合いを通してかけがえのない存在、価値ある存在として捉える気持ち

□　自尊感情を構成する３つの観点

観点Ａ：　自分のよさを発見するとともに自分のよさを認める。

観点Ｂ：　多様な人との関わりを通して、互いの存在の大切さに気付く。

観点Ｃ：　今の自分を受け止め、自分の可能性について気付く。



（「自信 やる気 確かな自我を 育てるために」
東京都教職員研修センター 平成２４年３月より）

５　児童・生徒の変容

第一小学校（児童Ｄについて）

友達との関係において、一人思い悩む傾向があり、調査結果からはＡとＢの観点に課題があることが明らかとなった。そこで、教科等の学習では、自分の考えを友達に伝える活動を意図的に設定した。また、日常の指導では、自分の思いを相手に伝えるよう声かけをし、水田学習の実行委員としての成功体験を認め、自信を付けさせるようにした。その結果、話合いに自ら参加し、自分の気持ちを伝えようとする姿勢が見られるようになった。

第一中学校（生徒Ｅについて）

自己主張が得意とは言えない実態があり、調査結果においても３観点全てにおいて課題があることが明らかとなった。そのため、教科等の学習では、Ｅが自ら発言できるよう個別の対応を充実し、発言することへの自信を深めさせた。また、日常の指導では、集団行動でリーダーシップを取る立場を経験させるなど積極的に行動できるように指導し、成功体験を積み重ねた結果、自己評価が高まり、日常の当番活動等についても積極的に取り組むようになった。

５．実践事例についての評価

○　成果と課題

＜成果＞

・　小中連携して道徳の時間や特別活動を充実させるとともに、人権標語・人権宣言の作成を行うことで、自分や他人を大切にしようとする意識が育ってきた。

・　自己評価シート（「自尊感情測定尺度（東京都版）」）を用いて児童・生徒の自尊感情の実態を個別に把握し、それを生かして児童・生徒一人一人の実態に応じた支援を充実させたことで、自尊感情の高まりが見られた。

・　人権課題に関わる学習の系統を見直し、計画的に実践することにより、偏見や差別意識を解消しようとする意欲が高まってきた。

＜課題＞

・　自己評価シートの調査の結果を踏まえ、児童・生徒の自尊感情を高めるために、小・中学校の連携を強化し実践を積み重ねていく。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

武蔵村山市立第一小学校、武蔵村山市立第一中学校
児童生徒の自尊感情を高め、自他を大切にして行動する実践力を育成することを目指して、校種間の接続・一貫性を追求した実践事例である。 発達段階に応じた目指す児童生徒像を明らかにし、道徳の時間や特別活動の時間の教材開発、特別支援学級の生活単元学習での自己・他者肯定感の醸成の実際が示されている。また、小中連携した「人権宣言」の作成と地域への発信の取組は、人権尊重のコミュニティづくりにつながる「開かれた学び」の例として参考になる。 都教職員研修センターの「自尊感情を構成する三つの観点」及びそれに基づく「自尊感情測定尺度」を活用して児童生徒の変容を測定したり、研究実践の成果や改善課題を明らかにしたりしている点は、「自尊感情」の概念を共通理解するとともに、人権教育の目標管理をしていく上で参考になる。